

課題番号：R1-034
研究課題名： ヒト癌細胞由来オルガノイドに関する安定的培養技術および画像解析技術の研究
<p><1. 研究の目的></p> <p>抗がん剤の評価技術ではゼノグラフトと呼ばれる人癌組織を埋包された実験用マウスが使用されるが、コストが高く動物保護の観点から使用の抑制が求められる。一方、人癌細胞から樹立されるオルガノイドは、生体内の癌細胞の特徴を生体外で再現することができるため、ゼノグラフトに変わる抗がん剤評価技術として期待される。しかし現行の培養技術では、樹立される癌オルガノイドの量産時（継代・拡大培養時）における形質変化、および再現性に懸念があり、改良が求められている。本研究は創薬支援を目指した新規In vitroアッセイ用オルガノイドの量産化技術、品質管理技術の開発を目的とする。</p>
<p><2. 研究対象者></p> <p>西暦 2019 年 5 月～ 2021 年 3 月に当院で手術を受けた患者さん</p>
<p><3. 研究期間></p> <p>倫理委員会承認後～2021年3月31日</p>
<p><4. 研究の方法></p> <p>オルガノイドの量産時（継代・拡大培養時）における形質変化を抑制し、高再現性を確保できる量産化技術の開発を行う。量産培養技術開発の過程において、癌サンプル本来の形質が量産培養オルガノイドに継承されていることを確認するため、分譲された癌サンプルの各種データを参照し培養オルガノイドの各種データと照合を行う。</p>
<p><5. 試料・情報の項目></p> <p>「診療で採取した組織、血液をつくばヒト組織バイオバンクセンターで保管することについて のお願い」（2016年9月以降）、及び「筑波大学附属病院で診療を受けられる患者さんへ」 （2016年9月以前）により同意の得られた患者試料・情報</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 組織（対象臓器：大腸、膵臓 対象疾患：大腸がん、膵臓がん ）</p> <p><input type="checkbox"/> 血液試料</p> <p><input type="checkbox"/> その他試料</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 臨床情報（年齢、性別、感染症の有無、診断）</p>
<p><6. 試料・情報の第三者への提供について></p> <p>該当なし</p>
<p><7. 試料・情報の管理について責任を有する人></p> <p>JSR株式会社 宮路 正昭</p>
<p><8. 研究機関名及び研究責任者名></p> <p>JSR株式会社 宮路 正昭</p>
<p><9. 本研究への参加を希望されない場合></p> <p>患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。</p>

<10. 問い合わせ連絡先>

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：つくばヒト組織バイオバンクセンター 担当 竹内朋代

電話・FAX：029-853-3715（土日祝日を除く 9～17時）

メール：bank298@hosp.tsukuba.ac.jp